

平成28年度「成年後見制度研修会」アンケート集計結果

<参加者データ>

	人数	備考
申込数	73	
当日参加者数	72	欠席:6名、当日参加:5名
アンケート提出数	66	アンケート提出率:91.7%

1 ①性別

	人数	構成比
男性	31	47.0%
女性	27	40.9%
無回答	8	12.1%
合計	66	100.0%

②年代

	人数	構成比
20代	6	9.1%
30代	12	18.2%
40代	12	18.2%
50代	18	27.3%
60代	11	16.7%
70代以上	7	10.6%
合計	66	100.0%

2 研修会を知ったきっかけは何ですか？

	人数	構成比	備考
広報ひろさき	0	0.0%	
案内文	34	51.5%	
ホームページ	0	0.0%	
ポスター	4	6.1%	
友人/知人から	7	10.6%	
その他	21	31.8%	施設/職場 等
無回答	0	0.0%	
合計	66	100.0%	

3 実践報告「市民後見人の活動」

	人数	構成比
とてもよかった	32	48.5%
よかった	33	50.0%
よくわからなかった	0	0.0%
まったくわからなかった	0	0.0%
無回答	1	1.5%
合計	66	100.0%

<意見・感想>

体験者の報告は大変ためになりました。
実際やってみてのご苦労が伝わりました。実践報告、聞いてよかったと思います。
活動内容が具体的に聞いてよかった。
実際にある施設で起きている事例が具体的に語られてわかりやすかった。
もっと活動の報告を聞きたい。
被後見人によりそって、熱心に活動されたことがうかがえた。
市民後見人の具体的な活動内容等を理解することができました。
成年後見支援センターにおける市民後見人の活動の推進について、参考になりました。
実際に活動されていた方のお話を伺えて良かったです。 弘前市は青森県内や全国的にすすんでいるというのも、なかなか興味深かったです。
貴重な体験を聞くことができ、勉強になりました。 バックアップ体制が整っていなければ活動に不安がありました。
被後見人の本意をくみとろうとして、市民後見人の方たちが、がんばっている様子がわかりました。 市民後見人が相談内容で不安があったときのサポートできる体制になっているのが良かったです。
市民後見人になった理由、被後見人との関係づくりについての話が聞いて貴重な時間でした。ありがとうございました。
市民後見人の活動で、問題点や市民後見人が対応する被後見人の現状を知る機会になった。 また、将来の市民後見人の課題についても考える機会となり、勉強になりました。
後見人が実際にどういう活動をしているのか、一部でしか後見人の方々と関わりがなかったので、詳しく知ることができた。自分もやってみようかという考えになった。
市民後見人の活動に対して、それを支える方々の存在やシステムづくり、ネットワークの構築などを知ることができ、安心して相談できることを確信しました。
市民後見人の実際の活動報告が聞いてよかった。サポート体制があるということもわかって安心した。 市民後見人の候補者の相談ができる窓口もまだまだ少ないので、活動の場が広がってほしいと思う。
市民後見人としての活動の中でも、どこまで係わっていけばいいのか、難しい事例でしたので、その都度、バックアップの体制もあり、相談しながら対応できるとわかり、とても良かったです。

<p>実践内容がきめ細かいところまで被後見人のためにしっかりと行っている姿が印象に残った。また、突発的なことにも対応がよく、ベストな活動だと評価します。</p>
<p>大変感心するお話しでした。また、市民後見人さんの心がこもったケアに被後見人は心温かく旅立てたと思いました。</p>
<p>それぞれの市民後見人の方が自分なりの方法で相手に対して思いやりをもって人間関係を構築していることがわかり参考になりました。</p>
<p>高齢福祉・介護等の専門職以外の一般市民でも、後見人となって活動できることはすごいと思った。高齢社会の中で、インフォーマルの活用は重要ポイントだと思う。</p>
<p>初めて参加して、後見人の役割を理解できたが、いろいろなケースがあると思う。本人の意思と連携が重要だということがわかった。</p>
<p>市民後見人が将来必要となり、需要があるのはわかるが、専門職との連携もさることながら、なんとなく、後見人を養成することに違和感があるのは私だけでしょうか。</p>
<p>説明が非常に具体的で、内容がよくわかりました。困難にぶつかっても、いろいろ工夫して解決していった様子がよくわかりました。</p>
<p>市民後見人の苦勞がよくわかりましたし、専門職でない市民後見人のバックアップ体制がなされることの重要性も大事である。</p>
<p>成功例だけでなく、失敗した例の報告もあるといいと思いました(自分が市民後見人となった時の対策として)。</p>
<p>市民後見人の活動をしている中で、様々な問題に直面しているということ、また、その問題を解決しながら活動をしているということがわかった。</p>
<p>成年後見支援センターのサポートがあることで、後見活動が安心して進められたのかなと思います。養成された市民後見人のサポートと、未受任の方のモチベーションの維持が大切かと思います。市民後見人の選任が増えること、センターのサポート力で一緒に進んでいけると良いなあと感じました。</p>
<p>市民後見人の方が受任するケースでも、死後事務まで行うことが多いのだとわかった。サポート体制があれば、協力して行うことができるので、市民後見人が選任されるケースも増えるのではと感じた。若い方が市民後見人をやっているの、同じような方々が増えればいいと思う。</p>
<p>市民後見人の方々が、立派に活動していると思いました。後見人の方々が、むしろ被後見人の死後の事務をしっかりとっていると思いました。後見活動のあいまいなところが、もっとも難しいのに、その大変なところを引き受けさせている国の制度として、成年後見制度をもっときちんとしてほしいと思いました。</p>
<p>市民後見人が関わる上での目標があり、それぞれの市民後見人との出逢いが被後見人にとっては幸せだったと思います。 できれば、もう少し具体的な大変さや、連携機関によってはやりにくいと感じること、後見人自身が終了後に不足を感じたりしなかったかどうか等、聞かせてもらいたかった。</p>

4 基調講演「成年後見制度と意思決定支援について」

	人数	構成比
とてもよかった	28	42.4%
よかった	33	50.0%
よくわからなかった	3	4.5%
まったくわからなかった	0	0.0%
無回答	2	3.0%
合計	66	100.0%

<意見・感想>

意思決定支援の概念について、知ることができました。
意思決定支援の重要性について学ばせていただいた。
成年後見制度に限らず、意思決定支援は難しいと思いました。
全国や海外の事例も含めながらお話を伺えてよかったです。
難しいところもありましたが、意思決定支援について具体的に理解できたと思います。
常にその人らしくありたいものだと強く感じました。
意思決定支援についての説明は理解できました。
少し難しかった。もう一度資料を読み直してみたい。また機会があったら参加したいと思った。
「本人が意思決定をするために、最善の努力をする」という言葉が印象的でした。
もっと時間をかけてお話を聞きたかったです。
日本の法律もMCAを中心に作成してほしい。
はなっから認知症や植物状態だからと決めつけて意思決定支援を行っていなかったことを反省しました。
スライドを利用しながら非常に興味深い内容でした。
資料が多くて難しかった。
今後の後見活動の参考になりました。
言葉や話し方、レジュメなどでわかりやすかったと思います。
成年後見制度の課題について理解を深めることができた。解決するために、申立て支援や担い手不足等、支援の強化や受け皿の確保が必要で、そのために行動を起こしていこうと思った。
意思決定支援についての研修は2回目です。細かい説明でしたが、本人の意思を確認するというとても重要な内容なので、もっと知識や経験が必要だと思います。
本人の気持ちを聞き出し、その気持ちを大切に支援するチームの1人として、意思を尊重していくことがわかりました。
後見人が被後見人を全体的によく理解すること等、詳細にわたっての話し、後見人として受任した場合によく参考になりました。

<p>自分自身、本人の思いを尊重する、本人の利益を優先してケアマネとして業務で関わっていると思っていましたが、無意識のうちによかれと思う方向へ導いていたことに気づかされました。</p>
<p>例はとてもわかりやすかった。意思決定能力は、本人がどのような状態でも残っていることを、仕事の上でも経験しているので、慎重に見極める必要を感じる。</p>
<p>2時間でこの内容を解説することは、とても難しいのではないかと。利き手も理解することに時間を要するのではないかと思った。</p>
<p>意思決定支援の大切さはわかったが、意思決定支援を実際に本人の意思を尊重して行動する労力を考えると、他に本業のある後見人にそこまで求められるのかと思う。公共の福祉について考えてしまう。</p>
<p>本人の意思を読みとるのはなかなかそこまで追いつかないが、この研修で少し広い視野を持つことの大切さや、考えがついたと思う。</p>
<p>意思決定支援と成年後見制度の矛盾するところはあるが、両者をできるだけすり合わせる事が今後の課題なのかなと感じた。</p>
<p>意思決定支援という言葉は知らなかったのですが、障害のある方にも意思決定が大事なことだとわかり、良かったです。</p>
<p>成年後見制度研修会に初めて参加したため、基本がベースになく、とまどいましたが、少し理解した気分になりました。 水島先生のお話が時間に追われてせわしなくて残念でした。</p>
<p>本人の意思決定能力を引き出す力が自分になくと思えば、他者の力を借りる場合があると思います。その選択方法も、なかなか難しいと思いました。支援が必要とされる人に良い環境を提供するのは、とても難しいことだと思いました。</p>
<p>意思決定支援についての研修は福祉の研修に参加していると耳にすることが多くなった。 本人の意思、本人の目線で計画や支援を行うこと、また、本当に本人のためになっているのかということを再確認することができました。</p>
<p>意思決定支援という言葉は聞いたことがありましたが、基本的な考え方をお聞きし、自分の頭の中も整理することができました。 意思の尊重≠意思決定支援の考え方を聞いてよかったです。</p>
<p>意思決定支援について、本人の意思を確認できるように努力することが大切で、また、成年後見人は、本人の意思を組んで支援することが大切になってくる。 今後、意思決定支援が重要になっていくことがよくわかりました。</p>
<p>本人の意思決定支援のためにはケア会議が必要となり、また、本人との面談等も必要で、簡単に進めてはいけないことだとわかった。 また、地域資源も活用し、本人のニーズをしていくことも大事だと感じる。後見人がつく、つかないにかかわらず、意思決定支援は必要だとわかった。</p>

5 全体をとおして

ありがとうございました。

今後も続けていただきたい。

とても広い勉強の機会になりました。

また参加したいです。

スタッフの皆様、おつかれさまでした。

動画は日本語がよかった。

本人の意思の尊重と周りの人たちとのかかわりは本当に難しいと思いました。

空調に少し配慮してほしかった。寒かったです。

市民後見人の受任はもっと多くならないだろうか。

動画が少し見えにくかったですが、実践報告や基調講演はためになりました。

後見人にかかる費用についての研修会も必要だと思う。

スライドの位置が低いのでムービーの字幕が全然見えず、内容がわからなかった。

市民後見人の話を聞いてよかった。

後見人の大変さがわかった気がしました。

休憩が一度だけだったので、眠気を感じました。

ありがとうございました。自分の家族や地域の中で暮らす人が自分らしく生きていける社会になって、輪が広がっていくといいなと思いました。

水島先生が早口で、資料もりだくさんでついていくのが大変だった。すっきりと簡単に説明してほしかった。まったく初めて知ることだったので・・・。

市民後見人の活動報告は有意義だった。
「意思決定支援」よりも「成年後見制度」(資料の28ページ)以降の方が知りたかった。

さまざまな分野の多くの方々が集まっていて、成年後見制度への関心が高いことがわかりました。また、潜在的な後見ニーズが高いことがわかりました。

研修会に参加するにあたって、どういうものか等ある程度の勉強はしてきたが、今回が初めての参加者もいるので、基本的な制度の説明はあった方がいいと思った。

意思決定支援のお話を聞いたことは大変良かった。
もう少し、市長申立てのことや、これからの市民後見人の役割やそれがどう広がっていくのかを聞きたいと思った。

内容がたくさんで、勉強になりました。
権利擁護の点で、後見制度以外のことも理解していきたいと思います。
ありがとうございました。

イギリスに留学されていたのはわかりますが、字幕スーパーの映像だったので、後ろの方に座っていて見えませんでした。世界的な内容もいいが、日本としての話も聞きたかった。
意思決定支援、なかなか実践するには難しく、今までもほぼできていなかった。しかし、講演を聞いて、推定することを大切に実践していきたい。

市民後見人の名簿登録者がもっと受任できるように、ハードルを下げるなり、バックアップを充実させるなりして、人材を活かしてください。
認知症の人がますます増えていく中で、センターは多忙になると思いますが、これからもますます活発な活動を期待しています。

せっかくのパワーポイントが見えずにとても残念でした。もう少し画面が小さくてもいいので、上に設置してほしい。
研修会の時間管理をきちんとやっていただき良かった。
今日の研修会で、成年後見制度の実践イメージが持てた。
今は仕事が多忙で時間をつくることは困難だが、現役退職後は検討したい。

成年後見制度については、いろいろな場で耳にすることが多くなりました。しかし、まだ十分に理解されているかどうか…考えさせられます。
支援者の中には、「お金のある人だけが利用する制度」「家族がいたら必要ない制度」と考える方も多いです。まずは制度の対象となる方をしっかりアセスメントをして、必要性を支援者に伝えることも大切だと感じました。